受検番号	氏名

2建二

令和８年度

２級建築施工管理技術検定

第二次検定問題

令和８年11月８日(日)

〔注　意　事　項〕

1．ページ数は，表紙を入れて17ページです。

2．試験時間は，**14時15分から16時15分**です。

3．解答用紙は，別紙（両面）になっています。

4．試験問題は，**５問題**です。

5．**問題１**から**問題３**は，**記述式**です。
解答は，解答用紙の定められた範囲内に，〔HB〕の**黒鉛筆**か**黒シャープペンシル**で記入してください。

6．**問題４**及び**問題５**は，**四肢択一式**です。正解と思う肢の番号を**１つ**選んでください。

7．**問題５**は，**受検種別**に従って次に該当する問題を**解答**してください。
イ．**受検種別：建　築**の受検者は**問題５－Ａ**を**解答**してください。
ロ．**受検種別：躯　体**の受検者は**問題５－Ｂ**を**解答**してください。
ハ．**受検種別：仕上げ**の受検者は**問題５－Ｃ**を**解答**してください。

8．**問題２の記号**，**問題４**及び**問題５の番号**の記入に当たっては，次によってください。
イ．選んだ記号又は番号を解答用紙のマーク例の良い例に従って，〔HB〕の**黒鉛筆**か**黒シャープペンシル**で塗りつぶしてください。ボールペン，サインペン，色鉛筆等では採点されません。
ロ．マークを訂正する場合は，消しゴムできれいに消して訂正してください。

9．解答用紙は，雑書きしたり，汚したり，折り曲げたりしないでください。

10．この問題用紙は，計算等に使用しても差し支えありません。

11．漢字に付した**ふりがな**は補足であり，異なる読み方の場合があります。

12．この問題用紙は，試験終了時刻まで在席した場合に限り，持ち帰りを認めます。
途中退席する場合は，持ち帰りできません。

問題１　建築工事の現場における**品質**に関するあなたの考えについて，今日までの経験を踏まえ，次の 1. 及び 2. の問いに答えなさい。

なお，建築工事には，建築設備工事を含まないものとする。

1.　はじめに，あなたの受検種別にかかる工種又は作業において 1. を解答するに当たり，３ページに示す**「イ．新築」**，**「ロ．解体」**又は４ページに示す**「ハ．改修」**の３つの工事の中からいずれか**１つ**を選び，解答用紙の「選んだ工事」欄の該当する工事の記号を **○ で囲みなさい**。

次に，選んだイ．からハ．の工事において，**品質の確保**を念頭に置いて施工や管理を進めていく立場として，次の①から③について，あなたの考えを**３つ**具体的に記述しなさい。

なお，３つの解答において，①の**工種名又は作業名等**及び②のうち**確保すべき品質**は同一の記述でもよいものとするが，②の**影響**及び③の**作業内容**と**手段又は方法**は異なる内容を記述するものとする。

また，選んだ工事が**「ロ．解体」**の場合にのみ，品質に関する内容のほか，工事関係者以外の第三者（公衆）への**環境配慮**や**災害防止**に関する内容を記述してもよいものとする。

ただし，次の内容の記述は不可とする。

・選んだ工事を行ううえで必要としない工種及び作業に関する内容
・「設計図書のとおり」等すべての作業に当てはまる内容

① **工種名又は作業名等**
② 選んだ工事において目標とする**確保すべき品質**と，
その品質が確保できなかった場合に考えられる**影響**
③ ②の品質を確保するために特に重要と考える**作業内容**と，
その作業を適切に施工や管理するために有効と考える**手段又は方法**

2.　あなたの受検種別及び 1. で選んだ工事にかかわらず，現場における**品質の管理**に関する組織的な取組みに関して，次の①及び②について，あなたの考えを**２つ**具体的に記述しなさい。

ただし，①及び②はすべて異なる内容の記述とし，1. と同一の内容の記述は不可とする。

① 工事関係者に周知や共有すべきと考える品質を管理するうえで**必要なこと**と，
そのことを周知や共有する際に有効と考える**手段又は方法**
② ①の手段又は方法を用いることで，品質の確保以外に得られる**良い影響**

「イ．新築」工事概要		「ロ．解体」工事概要	
工事内容	共同住宅新築及び敷地内整備工事	工事内容	共同住宅建物及び敷地内外構解体 杭引抜き，整地含む アスベスト含有建材はない
工　　期	12か月	工　　期	3か月

以下は，**「イ．新築」**，**「ロ．解体」**の共通の工事概要とする。

敷地周辺は低層から中層の共同住宅が立ち並ぶ住宅街で，敷地の一面は幅員6mの道路が接する。

（表中「○＋△＋□」は，○下地のうえ△面に□仕上げ等，下地と表面仕上げの関係を示す。）

主要構造		鉄筋コンクリート構造　地上4階建て（ただし，はね出した風除室の柱，梁は鉄骨構造）			
主要用途		共同住宅　20世帯用（4LDK）	型枠		コンクリート型枠用合板 パイプサポートを用いた在来工法 風除室屋根のみ 床版用デッキプレート
面積		敷地面積 1,500.0 m² 建築面積　900.0 m² 延べ面積 2,800.0 m²			
最高高さ		13.4 m	鉄筋，鉄骨		工場加工，現場組立て 柱，梁主筋：ガス圧接接手
階高		3.0 m			
根切深さ		設計 GL−1.2 m	エレベーター		乗用6人乗り　1台
地業		既製コンクリート杭（PHC杭）	駐車場		アスファルト舗装 20台
コンクリート		現場打ちコンクリート	自転車置場		コンクリート舗装　駐輪ラック
			敷地境界		アルミニウム製化粧フェンス
主な外部仕上げ					
屋根	陸屋根	アスファルト露出断熱防水 アルミニウム製笠木	床	廊下，階段	モルタル下地＋防滑性合成樹脂塗床
				バルコニー	モルタル下地＋ウレタン系塗膜防水
	風除室屋根	ウレタン系塗膜防水，ステンレス製笠木	建具他	風除室扉	ステンレス製自動扉，強化ガラス共
外壁	外壁	コンクリート打放し ＋防水形複層塗材		玄関扉	化粧シート張り鋼製扉
				窓	アルミニウム製サッシ，複層ガラス共
	断熱	内断熱工法 現場発泡断熱材吹付け		バルコニー	アルミニウム製ルーバー手すり
				階段	ステンレス製壁付手すり
主な内部仕上げ（専有部天井高さ 2.4 m，共用部天井高さ 2.5 m）					
床	居室	乾式二重床＋パーティクルボード ＋フローリングボード	壁	エントランス	コンクリート打放し ＋小口タイル有機系接着工法
	水回り	乾式二重床＋耐水合板 ＋クッションフロア	天井	居室，玄関 水回り	軽量鉄骨下地＋せっこうボード ＋ビニルクロス
	玄関	モルタル下地＋ビニル床シート		風除室 エントランス	軽量鉄骨下地＋アルミスパンドレル
	風除室 エントランス	モルタル下地＋ノンスリップタイル	建具他	居室	化粧シート張り木製扉　枠共 スライディング木製引戸　枠共 ウォークインクローゼット含む各種収納
壁	居室 玄関	軽量鉄骨下地＋せっこうボード ＋ビニルクロス			
	水回り	軽量鉄骨下地＋シージングせっこうボード ＋ビニルクロス		水回り	ユニットバス，洗面化粧台 システムキッチン，吊戸棚

「ハ．改修」工事概要			
工事内容	戸建て住宅内装改修工事 住居者不在の居抜き作業	工期	1か月

屋根及び外壁，外部に面する玄関扉や窓サッシ等外部仕上げの改修は行わない。
敷地周辺は戸建て住宅が立ち並ぶ住宅街で，敷地の一面は幅員4mの道路が接する。
（表中「○＋△＋□」は，○下地のうえ△面に□仕上げ等，下地と表面仕上げの関係を示す。）
（SOP：合成樹脂調合ペイント）

主要構造	木構造 在来軸組構法 地上2階建て	主要用途	住宅（3LDK）
面積	敷地面積　80.0 m²	最高高さ	6.2 m
	建築面積　45.0 m²	階高	2.8 m
	延べ面積　90.0 m²		

主な内部仕上げ改修（天井高さ 2.2 m）

床	居室	（既存） 木床組 構造用合板＋畳撤去	壁	水回り	（既存） 木下地面 シージングせっこうボード ＋木幅木，ビニルクロス撤去
		（改修） 既存木床組面 構造用合板 ＋フローリングボード張り			（改修） 既存木下地面 シージングせっこうボード ＋木幅木，ビニルクロス張り
	水回り	（既存） 木床組＋耐水合板面 ビニル床シート撤去	天井	居室 水回り 玄関	（既存） 木下地面 化粧せっこうボード，回り縁撤去
		（改修） 既存耐水合板面 ビニル床シート張り　下地補修共			（改修） 既存木下地面 せっこうボード＋ビニルクロス張り 回り縁
	玄関	（既存） 玉石洗い出し撤去	建具他	居室	（既存） 戸ぶすま，押入ぶすま　木枠共撤去
		（改修） モルタル下地＋タイル張り			（改修） 出入口：木製化粧片開き扉 押　入：木製化粧両開き折戸 木枠＋SOP塗り 既存木製窓額縁面 SOP 塗替え
壁	居室 玄関	（既存） 木下地＋せっこうボード面 畳寄せ又は木幅木，長押， ビニルクロス撤去		水回り	既存片開き扉面 SOP 塗替え　枠共 既存木製窓額縁面 SOP 塗替え 既存水回り住宅設備機器取合い シーリングやり替え
		（改修） 既存せっこうボード面 木幅木，ビニルクロス張り 下地補修共			

問題 2　次の建築工事に関する用語の一覧表の中から **5 つ**用語を選び，解答用紙の用語の記号欄の**記号にマーク**をしたうえで，選んだ用語欄に**用語**（**太字**で示す部分のみでも可）を記入し，その**用語の説明**と施工上**留意すべきこと**を具体的に記述しなさい。

ただし，使用資機材に不良品はないものとする。

なお，記号ａ及び記号ｎ以外の用語については，作業上の安全に関する記述は不可とする。

用語の一覧表

用語の記号	用　　語
a	足場の**手すり先行工法**
b	アルミニウム製**笠木**
c	型枠の**セパレータ**
d	壁タイルの**密着張り**（ヴィブラート工法）
e	コンクリートの**誘発目地**
f	セルフレベリング工法
g	タイトフレーム
h	脱気装置
i	鉄筋の**スペーサ**
j	法付け**オープンカット工法**
k	吹付け塗装の**エアレススプレー塗り**
ℓ	木材の**仕口**
m	溶接の**アンダーカット**
n	陸墨

問題 3　鉄骨構造 3 階建ての店舗兼賃貸住宅新築工事について，工事概要を確認のうえ，右の工程表及び出来高表に関し，次の 1. から 3. の問いに答えなさい。

出来高表は，3 月末時点のものを示しており，合計欄の月別実績出来高及び実績出来高累計の金額は記載していない。

なお，各作業は一般的な施工手順に従って行われるものとする。

［工事概要］

用　　途：店舗（1 階），賃貸住宅　6 戸（2, 3 階）

構造，規模：鉄骨構造　地上 3 階建て，延べ面積 650.0 m²

杭は既製コンクリート杭，鉄骨耐火被覆は耐火材巻付け工法

外部仕上げ：屋上防水はアスファルト露出防水断熱工法

外壁は ALC パネル，防水形複層塗材仕上げ

内部仕上げ：店　舗　床はコンクリート直均し仕上げまで

壁，天井は軽量鉄骨下地せっこうボード張りまで

（仕上げ張り，塗装他，テナント工事は別途で，本工事外とする。）

賃貸住宅　床は乾式二重床，フローリング張り

壁，天井は軽量鉄骨下地せっこうボード張りの上，クロス張り

ユニットバス，家具等（内装工事に含めている。）

1. 工程表の土工事，地業工事の**Ⓐ**，内装工事の**Ⓑ**に該当する**作業名**を記入しなさい。

2. 出来高表から，2 月末の**実績出来高累計**の金額を記入しなさい。

3. 工程表は工事計画時に作成していたものであるが，工程上，施工時期が不適当な作業があり，出来高表についても誤った月にその予定出来高金額が記載されている。

これらに関して，次の①から③について答えなさい。

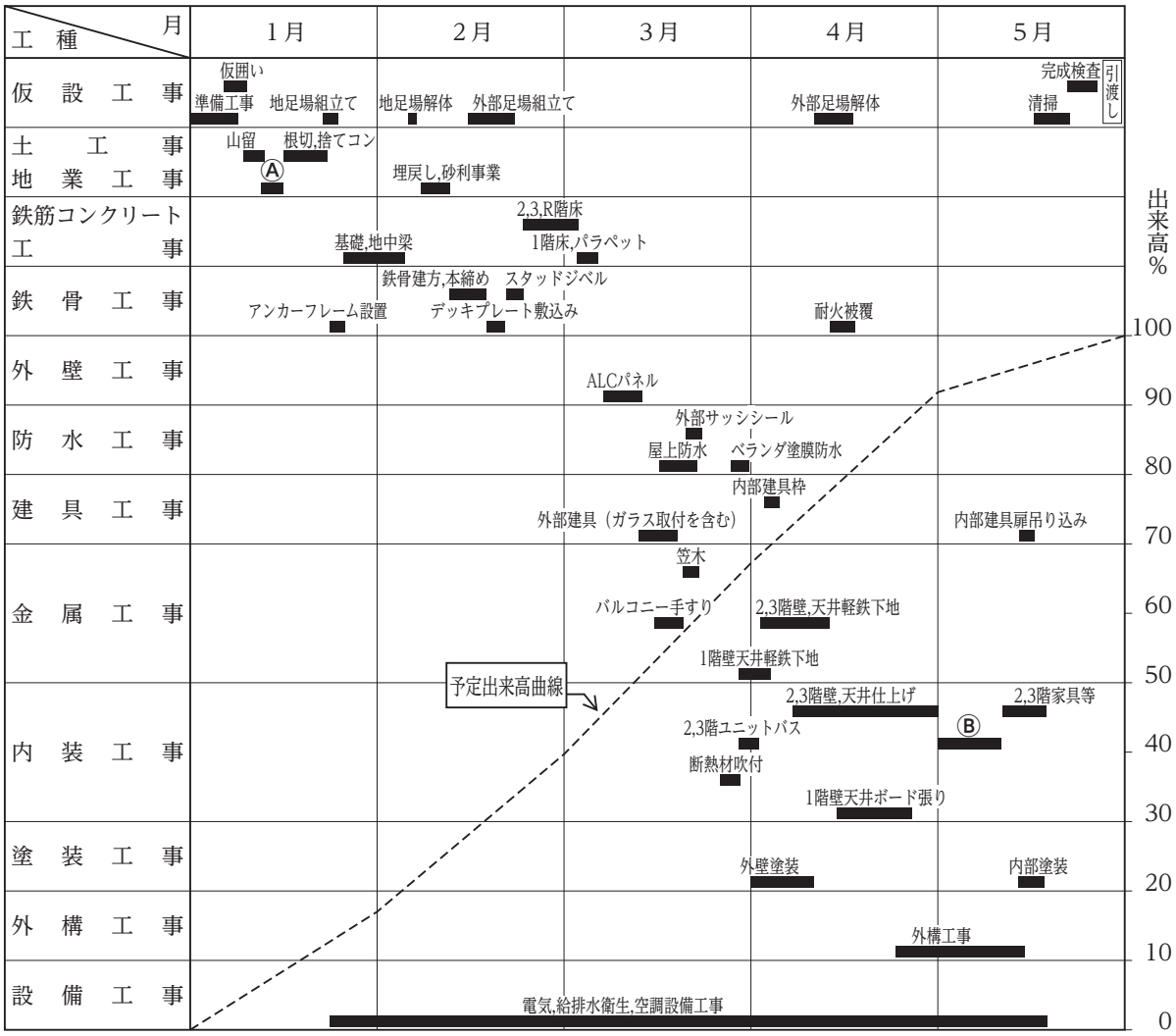
① 工程上，施工時期が**不適当な作業名**を記入しなさい。

② ①で解答した作業の**適当な施工時期**を月と旬日で記入しなさい。

ただし，**旬日は，上旬，中旬，下旬**とする。

③ ②で解答した適当な施工時期に合わせて出来高表の誤りを修正したうえで，3 月末の**実績出来高累計**の金額を記入しなさい。

工程表



出来高表

単位　万円

工種	工事金額	予定出来高 / 実績出来高	1月	2月	3月	4月	5月
仮設工事	1,000	予定	100	400	100	300	100
		実績	100	400	100		
土工事 地業工事	1,000	予定	650	350			
		実績	650	350			
鉄筋コンクリート工事	1,500	予定	750	300	450		
		実績	600	360	540		
鉄骨工事	1,200	予定	70	1,070		60	
		実績	70	1,070			
外壁工事	800	予定			800		
		実績			800		
防水工事	200	予定			200		
		実績			200		
建具工事	500	予定			430		70
		実績			440		
金属工事	700	予定			280	420	
		実績			280		
内装工事	1,100	予定			220	660	220
		実績			220		
塗装工事	300	予定				230	70
		実績					
外構工事	300	予定				90	210
		実績					
設備工事	1,400	予定	140	140	280	700	140
		実績	140	140	280		
合計	10,000	月別予定出来高	1,710	2,260	2,760	2,460	810
		月別実績出来高					
		実績出来高累計					

問題 4　次の 1. から 3. の各法文において，［　　］に当てはまる**正しい語句又は数値**を，下の該当する枠内から**1つ**選びなさい。

1. 建設業法　（建設工事の適正な施工の確保のために必要な措置）

第 25 条の 28　特定建設業者は，工事の施工の管理に関する情報［①］の整備その他の建設工事の適正な施工を確保するために必要な情報通信技術の［②］に関し必要な措置を講ずるよう努めなければならない。

2　（略）

3　（略）

①	①処理環境	②処理組織	③ネットワーク	④システム

②	①導　入	②拡　大	③活　用	④安全性

2. 建築基準法施行令　（根切り工事，山留め工事等を行う場合の危害の防止）

第 136 条の 3　建築工事等において根切り工事，山留め工事，ウエル工事，ケーソン工事その他基礎工事を行なう場合においては，あらかじめ，地下に埋設されたガス管，ケーブル，水道管及び下水道管の損壊による危害の発生を防止するための措置を講じなければならない。

2　（略）

3　（略）

4　建築工事等において深さ［③］メートル以上の根切り工事を行なう場合においては，地盤が［④］するおそれがないとき，及び周辺の状況により危害防止上支障がないときを除き，山留めを設けなければならない。この場合において，山留めの根入れは，周辺の地盤の安定を保持するために相当な深さとしなければならない。

5　（略）

6　（略）

③	①0.5	②1.0	③1.5	④2.0

④	①変　形	②沈　下	③陥　没	④崩　壊

3. 労働安全衛生法　（事業者等の責務）

第3条　事業者は，単にこの法律で定める労働災害の防止のための最低基準を守るだけでなく，快適な職場環境の実現と労働条件の改善を通じて職場における労働者の安全と健康を確保するようにしなければならない。また，事業者は，国が実施する労働災害の防止に関する施策に協力するようにしなければならない。

2　（略）

3　建設工事の［⑤］その他の仕事を他人に請け負わせる者は，施工方法，作業方法，工期，納期等について，安全で衛生的な作業の遂行を損なうおそれのある［⑥］を付さないように配慮しなければならない。

⑤	①注文者	②建築主	③監理者	④元請負人

⑥	①義　務	②条　件	③負　担	④特　約

※　**受検種別：建　築**の受検者は**問題 5 － A** を**解答**してください。

問題 5 － A　次の 1. から 8. の各記述において，［　　］に当てはまる**最も適当な語句又は数値**を，下の枠内から**1 つ**選びなさい。

1.　地盤調査において，基礎が載る地盤に直に載荷板を設置し，これに荷重をかけて［ ① ］を測定する試験を平板載荷試験という。

①	① 沈下量	② 反　力	③ 変形量	④ 曲げ応力

2.　鉄筋のガス圧接継手において，同径の鉄筋を圧接する場合，圧接部のふくらみの直径は主筋等の径の［ ② ］倍以上とし，かつ，その長さを主筋等の径の 1.1 倍以上とする。

②	① 1.3	② 1.4	③ 1.5	④ 1.6

3.　コンクリート工事において，コンクリートの練混ぜから打込み完了までの時間は，外気温が 25 ℃ 以上の場合は最大［ ③ ］分とする。

③	① 30	② 60	③ 90	④ 120

4.　柱の型枠は，柱筋のまわりにかぶり厚さを確保するように各面のせき板を組み立て，縦端太，横端太を当て，フォームタイ等の締付け金物で締め付ける。

なお，型枠の締付けには［ ④ ］と呼ばれる柱型枠専用の締付け金物を用いることもある。

④	① コラムクランプ	② コラムフォーム	③ 柱用セパレータ	④ 柱用ターンバックル

5. セメントモルタルによる外壁タイル張りにおいて，［ ⑤ ］張りは，張付けモルタルを下地面とタイル裏面の両方に塗ってタイルを張り付ける工法である。

⑤	① マスク	② 密　着	③ 改良積上げ	④ 改良圧着

6. 外部に面するアルミニウム製建具の取付けに当たっては，サッシの枠に取り付けたアンカー金物と躯体に埋め込まれた溶接下地金物又は差し筋等と溶接して固定し，サッシの枠と躯体周囲の隙間に型枠を当てるなどして，［ ⑥ ］モルタルを充填する。

⑥	① 固練り	② 樹　脂	③ 防水剤入り	④ ポリマーセメント

7. 塗装工事において，塗装の作業時には多湿を避ける。やむを得ず塗装をする場合は，塗装場所の湿度が［ ⑦ ］％以上の時は換気等を行う。

⑦	① 70	② 75	③ 80	④ 85

8. 内装工事に使用される［ ⑧ ］せっこうボードは，芯材のせっこうに無機質繊維等を混入したもので，防火性が高く遮音壁の下地材として使用される。

⑧	① 吸放湿	② 強　化	③ 化　粧	④ 不燃積層

※ **受検種別：躯　体**の受検者は**問題 5 － B** を**解答**してください。

問題 5 － B　次の 1. から 4. の各記述において，［　　］に当てはまる**最も適当な語句又は数値**を，下の該当する枠内から**1 つ**選びなさい。

1. 原位置における地盤調査としては，ボーリングと標準貫入試験が一般に行われる。
標準貫入試験は，ドライブハンマーを自由落下させて，SPT サンプラーを地層に［ ① ］mm 貫入させるのに要した打撃回数を測定する。この打撃回数を［ ② ］値と呼んでいる。

①	(1) 200	(2) 300	(3) 400	(4) 500

②	(1) D	(2) N	(3) NC	(4) S

2. アースドリル工法とは，素掘りを掘削の基本として開発されたもので，場所打ちコンクリート杭工法の中でも付属設備や機材，仮設物が少なく，迅速に作業を始めることができる工法である。
ドリリングバケットにより掘削，排土してから鉄筋かごを挿入し，［ ③ ］を用いてコンクリートを打ち込み，杭を造る。
孔壁の崩れは，［ ④ ］の注入や表層ケーシングの挿入によって防ぐが，孔底部にスライムが溜まりやすいので注意する。

③	(1) コンクリートホース	(2) シュート	(3) トレミー管	(4) ホッパー

④	(1) 安定液	(2) 杭周固定液	(3) 掘削液	(4) 根固め液

3. コンクリート工事において，レディーミクストコンクリートを発注する際の［⑤］強度は，確実に目標の強度を与えるため，調合管理強度以上となるように指定する。
調合管理強度の試験において，供試体の養生方法は標準養生とし，試験材齢は，原則として，［⑥］日とする。

⑤	①構造体	②設計基準	③品質基準	④呼び

⑥	①7	②14	③28	④56

4. 中小規模の鉄骨構造で多く用いられる露出形式柱脚のあと詰め中心塗り工法では，ベースモルタルに無収縮モルタルを使用し，建方までに3日間以上の養生期間をとる。
建方の後に，ベースプレートの下でベースモルタルがない部分には［⑦］を充填する。
［⑦］が固まって強度が発現したら，アンカーボルトのナットを所定の強さで締める。
ナットは戻止めのために二重にし，ねじ部分はナットから最低［⑧］山出るようにする。

⑦	①ウレタン樹脂	②エポキシ樹脂	③グラウト	④セメントペースト

⑧	①2	②3	③4	④5

※　**受検種別：仕上げ**の受検者は**問題 5 － C** を**解答**してください。

問題 5 － C　次の 1. から 4. の各記述において，［　　］に当てはまる**最も適当な語句又は数値**を，下の該当する枠内から **1 つ**選びなさい。

1.　改質アスファルトシート防水トーチ工法において，改質アスファルトシートの張付けは，トーチバーナーで改質アスファルトシートの［ ① ］及び下地を均一にあぶり，［ ① ］の改質アスファルトを溶融させながら均一に押し広げて密着させる。

改質アスファルトシートの相互の重ね幅は，長手方向，幅方向とも［ ② ］mm 以上とし，原則として，水勾配に逆らわないよう水下側シートが下層になるよう接合する。

①	① 表　面	② 表裏面	③ 裏　面	④ 小口面

②	① 20	② 40	③ 70	④ 100

2.　軽量鉄骨天井下地工事において，鉄筋コンクリート構造の場合，つりボルトの取付けは，埋込みインサートにねじ込んで固定する。

野縁の吊下げは，取り付けられた［ ③ ］に野縁をクリップで留め付ける。

平天井の場合，目の錯覚で天井面が下がって見えることがあるため，天井下地の中央部を基準レベルよりも吊り上げる方法が行われている。これを［ ④ ］といい，室内張りのスパンに対して $\frac{1}{500}$ から $\frac{1}{1{,}000}$ 程度が適当とされている。

③	① つりボルト	② 野縁受け	③ ハンガ	④ ランナ

④	① むくり	② ねじり	③ たわみ	④ そ　り

3. 外壁の吹付け工事において，複層仕上塗材 CE のゆず肌状の仕上げとする場合，主材及び上塗材は，塗付けを［⑤］とする。

上塗材は，主材層を保護したり，色や光沢によりデザイン性を高めたりするために［⑥］kg/m^2 以上の所要量で 2 回塗りを標準とする。

⑤	①吹付け	②ローラー塗り	③はけ塗り	④こて塗り

⑥	①0.10	②0.15	③0.20	④0.25

4. 内装工事のビニル床シートの張付けにおいて，施工に先立ち，床シートを割付け寸法に従って裁断して，室温にて 24 時間以上放置して［⑦］を取り，なじむようにする。

張付け前に十分に乾燥させ清掃した下地面に接着剤を均一に塗布し，状況に応じたオープンタイムを取り，床シートを張り付ける。

この時，施工時の作業環境温度が［⑧］℃以上に保つよう，必要に応じてジェットヒーター等で採暖を行い，施工後 12 時間程度は極端な温度変化が生じないようにする。

⑦	①巻き癖	②静電気	③湿　気	④し　わ

⑧	①0	②10	③15	④20

令和８年度　２級建築施工管理技術検定　第二次検定

四肢択一式問題の正答肢

共通

問題４	問題No.	1.		2.		3.	
		①	②	③	④	⑤	⑥
	正答肢	4	3	3	4	1	2

受検種別：建　築

問題５－A	問題No.	1.	2.	3.	4.	5.	6.	7.	8.
		①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧
	正答肢	1	2	3	1	4	3	4	2

受検種別：躯　体

問題５－B	問題No.	1.		2.		3.		4.	
		①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧
	正答肢	2	2	3	1	4	3	3	2

受検種別：仕上げ

問題５－C	問題No.	1.		2.		3.		4.	
		①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧
	正答肢	3	4	2	1	2	4	1	2

解答の公表範囲

● 第二次検定は、問題の解答形式がマークシートとなっている設問の正答番号を公表します。

なお、解答形式が記述式の設問の正答は公表しません。